

臨床研究に関する情報

2026 年 6 月 11 日（第 1.2 版）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。

〔研究課題名〕

カフ型カテーテルの血栓除去に対する安全性の研究

〔研究機関名・所属・代表者名〕 札幌北楡病院 外科 後藤順一

〔研究機関名・所属・共同研究者名〕 札幌北楡病院 血管外科 熱田義顕、腎臓内科、山田夏生、外科 谷山宣之、藤居勇貴、北 健吾、財津雅昭、服部優宏、高橋宏明、目黒順一

〔研究の目的〕

透析のバスキュラーアクセス(以下 VA)は自己血管や人工血管による内シャントが多く、透析用カフ型カテーテル(以下 TCC)は自己血管の荒廃した患者、ADL が著しく低下した患者に施行することが多い。TCC は内シャントが不能な患者さんに対する最終的な VA であることが多く、その維持には細心の注意が必要である。しかしながら TCC の一次開存率は 6 か月 57.9%、1 年 39.6%、2 年 18.9%、3 年 7.3%と極めて不良である(当院データ)。その原因の一つとしてカテーテル内腔の血栓形成があり、時にカテーテルの使用不能につながる。カテーテル維持ができなければ透析ができない＝生命予後にかかわり極めて重大である。TCC の血栓形成に対しては血管造影用ガイドワイヤー(GW)を用いた微小血栓除去が行われてきた。当院でも行ってきたが、その安全性についての報告はほとんどない。当院での TCC 血栓除去の安全性について調査、研究を行う。

〔研究の方法〕

○対象となる患者さん

2000 年 1 月 1 日から 2026 年 12 月 31 日までの間に札幌北楡病院で TCC に対して GW により血栓除去治療を受けられた患者さん

○利用する検体・カルテ情報

基本情報：年齢、性別、最終観察日、転帰

疾患情報：疾患名、治療内容、合併症

その他検査情報：血液生化学的検査結果、画像検査所見（エコー、造影検査）

〔研究実施期間〕

2025 年 1 月 1 日～2028 年 12 月 31 日

◎個人情報の取り扱い 利用する情報につきましては、お名前、住所など、ご本人と直接

同定できる個人情報とは削除します。また、研究結果は学会や学術雑誌、データベース等で発表されますが、その際もご本人と特定できる個人情報は利用しません。＊上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[問い合わせ先]

北海道札幌市白石区東札幌 6 条 6 丁目 5 - 1

社会医療法人北楡会 札幌北楡病院 外科 担当医師 後藤順一

電話 011-865-0111 FAX 011-865-9719